

## B—67 カラーテストによる被験者サンプリングに関する研究

奈良女大家政 山崎 勝弘  
香川県明善短大 ○多田 良江

1. 感覚を必要とする実験を行なう場合、被験者の選定には特に意を払わねばならない。「色彩効果と個性判断に関する研究」(山崎, 西垣; 家政学研究 Vol. 8, No.2)によって配色効果を応用した個性判断の可能性が明らかになったことから、本研究ではさらにこれを進展させて被験者サンプリングに応用できないものだろうかと思ひ、この研究に着手したのである。

2. 試料および実験方法はつぎのとおりである。

I) それぞれ刺激の異なる12組の配色カードを作成して、これを4つのグループに分け、灰色台紙に貼付した。このカラーテスト盤を被験者に示し、それぞれのグループから一つずつ好きな配色を選んで用紙に記入させた。

II) 質問紙法による矢田部・ギルフォード性格検査用紙を用い、1~120の質問に対して、「はい」「どちらでもない」「いいえ」のどれかに印をつけてもらった。上記の実験I IIを同一被験者に実施し、カラーテストと性格検査の相関を調べた。

3. カラーテストの結果は二大別され、被験者の80%までが集中する頻度の高い配色型と、その他に分れ、前者の平均プロフィールは、ごく普通の平凡型であり、極めて頻度の低い配色型を選ぶ人との間に明確なプロフィールの差がみられる。このことはカラーテストによる被験者サンプリングの可能性を示すものといえる。